



このまちで みんなと いきてゆく

コミュニティソーシャルワーク
活動紹介



はじめに



CSWが目指しているのはこの社会で生き抜くことへの支援と おたがいさまの寛容な地域社会の実現

様々な人々との出会いから多くのことを学び、そして通じあい、時に喜怒哀楽を共有することで、私たちはこの世で生きていく意味を感じています。

しかしこの社会でこうしたつながりがなく、「助けて」が言えず、ひっそり暮らしている人たちがいること、言い換えれば地域社会の表舞台に立たない人たちのことを考える必要があるのではないかと考えます。病気や障がい、経済的要因、就労、家庭環境の問題等が生じても様々な理由から声を出しにくい人たちのことです。私たちはその人たちに起きている現実をこの社会の現実と受け止めて、同じ地域社会の一員として、その人たちも不自由なく暮らしていける社会の実現に寄与したいと考えています。

2019年3月、国連が発表した「世界幸福度ランキング2019」で日本は156カ国中、昨年の54位から4つ順位を下げて58位になっています。特に気になったのは、日本は「健康寿命」では2位になったが、「人生選択の自由度」が64位、「寛容さ」が92位となり、経済協力開発機構(OECD)加盟36カ国中32位と幸福度が低いことです。各国の慣習に相違があり、並べて評価することについて難しい部分もありますが、この2つの課題(人生選択の自由度、寛容さ)はこの社会で生きづらさを感じる人たちの重要な要因の一つと考えます。

コミュニティソーシャルワーカー(CSW)は個々の生活課題の解決に向けての道筋を探るとともに、この社会の偏見や差別と向き合い、仕事や人間関係で躓いても、今一度誰もがで生き抜くことができる社会にしていくために、そして寛容な地域社会の実現のために地域住民や企業、学校等との連携を図りながら福祉醸成を推進しています。

この度、現在のCSW活動の状況をレポートにまとめました。ご一読いただきご助言等をいただければ幸いです。

豊島区民社会福祉協議会 地域相談支援課
コミュニティソーシャルワーカー(CSW)一同



目次

はじめに

1. 豊島区民社協CSWについて…………… 1～5
2. 個別相談支援…………… 6～8
3. 地域支援活動…………… 9～19
 - (1) 学びあい支えあいの活動
 - (2) サロン立ち上げ・運営支援
 - (3) 学習支援活動
 - (4) 大学との連携
 - (5) 地域福祉サポーター活動

社会福祉協議会／ふくじい・ふくみん 紹介



1. 豊島区民社協CSWについて

CSWとは

地域において、生活上の課題を抱える個人や家族に対する個別支援と、人々が暮らす生活環境の整備や住民の組織化等の地域支援を、様々なネットワークを生かし、チームアプローチによって統合的に展開する実践です。

個別支援から地域の中で共通する課題を見つけ、地域住民や関係機関等との協同により、課題解決に向けた新たな仕組みづくりを行います。

高齢者総合相談センターと同じ圏域割で、区内8圏域に各2~3名のコミュニティソーシャルワーカー(CSW)が配置されています。



豊島区民社協キャラクター
ふくじい

CSW配置図

🏠...区民ひろば(CSW常駐)



CSWの特徴

- 全世代を対象に、地域住民の暮らしの相談を承っています。
- 「相談は断らない」「相談は福祉のことにこだわらない、暮らしのこと全般」社会的な孤立や制度の狭間にある住民への支援を行っています。
- 地域住民、町会・自治会、民生委員児童委員、青少年育成委員、地域福祉サポーター、各関係機関等と連携して活動しています。
- 地域福祉活動を強化するため、新たな支えあいのネットワークづくりを進め、地域を多面的に支える体制を目指します。
- 地域共生社会の実現を目指し、地域住民が個人や地域の生活課題を「他人事」ではなく「我が事」としてとらえられるように、福祉意識の醸成に取り組めます。



豊島区民社協キャラクター
ふくみん

CSWは生活の中の不安なこと、地域の中で心配なこと、どこに相談したらいいかわからないことなどを、地域のみなさんや関係機関と協力して、解決に向けたお手伝いをします！

CSW実践の体制

CSWは実践の質の向上を図るために、チームで活動しています。

●ユニット会議：週1回程度

隣接する2圏域でユニットを組み(4~6名で1ユニット)、ケースの進捗を共有し連携体制を構築します。

●事例検討会議：月1回程度

解決困難な個別支援、地域支援活動について、他圏域の類似ケースや成功事例を共有するなど支援の方向性を見つけます。



ユニット会議

その他、月に1回CSW全員で会議を行い、さらに年に1~2回大学の先生に意見をもらったり、各種研修等にも参加しています。



CSWの5つの役割

CSWは下記の5つの役割(個別相談支援、地域支援活動、地域の実態把握、地域のネットワークづくり、住民の福祉意識の醸成)を軸に日々活動をしています。この5つは連動しており、地域全体の支援につながっています。

個別相談・支援

- 個別相談への対応・支援
- 一人ひとりの生活、気持ちに寄り添った支援



地域のネットワークづくり

- 関係機関(フォーマル)、地域活動等(インフォーマル)とのつながりを行う
- ネットワークを通じ、地域課題の共有、見える化を行う

CSWの5つの役割

地域支援活動

- 個別相談から地域に共通する課題を引き出し、住民参加のもと地域支援活動を進める
- 学びあい、支えあいの視点で地域活動を創出
- 住民が進める地域活動のサポート



地域の実態把握

- 地域課題、社会資源の把握



住民の福祉意識の醸成

- 住民への福祉教育の推進
- 地域支援活動に参加したくなるような環境づくり



CSWの一日

8:30



一日の始まりは朝礼から



東池袋の社協事務局から各区民ひろばへ移動

9:30



来所相談:
空き家の活用について



地域サロンに参加

10:30

12:00



ランチタイム

移動はほぼ自転車



13:10



お宅訪問:
子どもの学習支援団体を紹介

15:00



関係機関との会議

16:00



事務作業も大切な仕事

CSWスナップ集



2. 個別相談支援

地域には様々な生活課題があり、CSWには複数の生活課題が重なりあった相談が数多く寄せられています。また、地域で活動したい、空き家を活用してほしいなど地域の役に立ちたいという相談を受けることもあります。その中から一例を紹介します。

生活課題

高齢だが働かないと生活が出来ない
再就職への不安

親の介護のために仕事を退職した
病気があり就職先が見つからない

日本語が読めず学校で配布される手紙を親が理解できない

外国人が地域で孤立している

文化の違いによるトラブル

立ち退きを迫られている
一人では住宅を探せない
家の中がごみであふれている

足が痛くて
買い物に行けない

人と関わりたくない

十分な食事がとれていない

ひきこもり

子どもや大人の孤食

使えるサービスや相談機関を知らない

住民同士の関係が希薄化している

頼れる親族がいない

地域で孤立している

地域の中に居場所がない

若い世代の地域参加が少ない

深夜まで子どもが一人で家にいる

子育て中の親が病気になった

進学のため塾に通いたいが経済的に困難

役に立ちたい



空き家を活用してほしい

持病があるが地域で活躍したい

ボランティアがしたい

自分の特技や趣味を誰かのために生かしたい



上記に挙げた地域の課題は、ほんの一部です。
CSWはこのような地域の生活課題について、地域住民や関係機関とともに考え、協力して支援を行っています。

多問題を抱えた家族の支援

住民の方から相談を受けた、「多問題を抱えた家族の支援」について紹介します。

1

最近、体が思うように動かないわね
80代祖母

体の調子が悪くて、自分のことで精一杯だわ
50代母

私が働かなくては家族が生活できない
50代父

僕が家族を支えないと
20代長男

誰かに手伝ってもらわないと生活できないわ
30代長女

2 詳しくお話を伺うとそれぞれの課題が見えてきました。

祖母：足腰が悪く、認知症の症状も出ています。介護保険の利用には拒否があります。

父：家族のことは気にしていますが、仕事が忙しく、余裕がありません。

母：家族の課題にストレスを感じ、体調に影響が出ています。

長女：心の病を抱えています。また、虚弱体質で長男のサポートなしには生活できません。

長男：長女の介護に追われ、定職に就くことができません。将来的には一人暮らしを希望しています。

CSW

3 | このような対応をしました! |

祖母：体調不良で入院した後、高齢者総合相談センターを紹介し、介護サービスの利用を開始する。

母 **父**：家族の課題にストレスを抱えている二人に対し、傾聴を重ね、家族の状況に合わせた情報提供を行う。

長女：長女が通院している病院と連携し、日中の活動の場としてデイケアを紹介する。また長男に頼らない生活を送るために、訓練の場としての入所施設を探すお手伝いをする。

長男：地域若者サポートステーションを紹介し、自立を目指して職業訓練を受け始める。

4

祖母：介護サービスを利用しながら、自宅で自分らしい生活を続けている。

母 **父**：家族の問題が解決し、ストレスが軽減された。病気がちであった母は、活気を取り戻した。

長男：地域若者サポートステーションの職業訓練を経て、無事就職する。就職と同時に一人暮らしを始め、自立した生活を営んでいる。

長女：他区の障がい福祉施設に入所が決まり、集団生活の中で、体調と生活リズムを整える訓練を行っている。

※地域若者サポートステーションとは、働くことに悩みを抱えている15～39歳の若者に対し、就労支援を行う機関です。

個別の相談から地域の支援へ

複数の個別相談から地域のニーズを発見し、サロン活動(地域支援)へつながっていったケースを紹介します。

困りごと



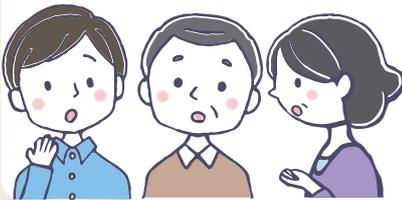
A さん
・60代男性 独居
・部屋は荷物であふれている
・日中室内温度は40℃近い
・エアコンなし
・区民ひろばの事業になじみがない

B さん
・90代女性 独居
・軽度の認知症
・毎日区民ひろばに通うことで生活リズムを保っている

C さん
・80代女性 家族同居
・区民ひろばの事業によく参加している
・精神的に不安定
・区民ひろばから支援を依頼されて、CSWが関わっている

➔ Bさん、Cさんの通っている区民ひろばが改修工事の為、1か月間閉鎖することになった

共に考える



「地域につどいの場が必要」という共通課題を発見 /
【課題解決に向けて】

- ① CSWより区民ひろばに相談
- ② 地域課題の共有
- ③ 課題解決に向けた取り組みを企画・立案
- ④ 区民ひろばと役割分担し、準備
- ⑤ 参加してほしい人への呼びかけ



・つどいの場づくり
・参加者の趣味特技を活かす取り組み
・参加者が役割を持ち、地域へ貢献できる取り組み

活動開始



「手仕事の会」を開始 / ※手仕事の会:手芸を中心に手作業をする会

- ・Aさんにとって、区民ひろばがなじみの場になった
- ・作業をすることで参加者が精神的に落ち着いた時間を過ごせた
- ・完成した作品をCSWの広報活動に活用した

➔ 「人の役に立つ仕事をしたい、活動を続けたい」との声があがる

新たなつながりの創出



誰もがつながり、参加できる“おたがいさま”の活動へ /

- ① 社会貢献の場、だれもが参加しやすいつどいの場として継続する
 - ② 作品を販売し、収益を子ども支援の団体に寄付する
- ・特技を活かした活動が生きがいになる
 - ・サロンを通じ、参加者同士が日ごろ声を掛け合う関係へと変化した
 - ・関連機関、団体(障がい者施設など)とも連携した活動が始まる
 - ・団体と実施した世代間交流イベントで、障がいのある方が子どもに得意の折り紙を教えることで地域参加した

3. 地域支援活動

地域支援活動では、誰もが安心して暮らしやすいまちを目指して、地域住民や町会・自治会、民生委員児童委員、関係機関などが協力し、学びあい・支えあいのサロン活動、学習支援、交流会など幅広い活動に取り組んでいます。



学びあい支えあいの活動

P10-12



サロン立ち上げ運営支援

P13-14



地域福祉サポーター活動

P17-18

このまちで
みんなと
いきでゆく



大学との連携

P16



学習支援活動

P15

(1) 学びあい支えあいの活動

CSWが地域住民や関係機関とともに取り組んでいる、地域支援活動の一部を紹介します。

つどいの場

日中のつどいの場づくりや地域貢献、情報交換、介護予防などを目的に、区民ひろばや福祉施設、個人宅の空きスペースなど、区内の様々な場所で活動しています。



食をテーマにした活動

子どもから高齢者まで、食を通じたつながりづくりを目指して実施しています。ホッと一息つける場の1つとして区内に広がっています。



多世代交流

子どもから高齢者まで誰もが気軽に楽しく、安心して集える場を目指して活動しています。



企業の地域貢献活動

豊島区内の企業が、社会貢献の一環で、地域の活動と協力してベルマークの仕分けや区民ひろばまつりでの企画、地域福祉サポーターの登録などを行っています。



町会の見守り活動

安心安全で、住み慣れた地域でいつまでも暮らせるよう、住民同士で知恵を出し合い、支え合いながら、見守りや情報共有などを行っています。



多文化共生

地域共生の視点で、外国人住民の困りごとへの支援活動や支援のためのネットワークづくり、日本語学習支援、地域での交流などの取り組みを行っています。



コラム

みんなが集う
地域のひろば

地域区民ひろば



CSWが常駐している「地域区民ひろば」は、赤ちゃんからお年寄りまでどなたでも利用できる施設です。

コミュニティの拠点として小学校区ごとに設置され、世代間の交流、高齢者の健康活動支援、子育て支援など多様な事業を行い、日々たくさんの方々が利用しています。また、警察・消防・保健所・CSWなど、さまざまな関係機関と連携して、セーフコミュニティの拠点として、安全・安心のまちづくりに取り組んでいます。

地域住民の
立場から

民生委員・児童委員の活動



特定の区域を担当し、相談に応じています。その他にも、住民に対する見守りや安否確認、適切な支援やサービスへつなげる「つなぎ役」など、重要な役割を果たしています。

そして、CSWや関係機関と連携した訪問活動や、地域住民の一員である民生委員児童委員ならではの視点から、住民同士の顔と顔の見える関係づくりを目的としたサロン運営などの地域支援活動を行っています。



(2) サロン立ち上げ・運営支援

新大塚みんなの広場 ～地域の居場所が立ち上がるまで～

STEP1

区民ミーティングで寺と住民の想いが一致



何か地域のお役に立ちたい



地域の子どもは地域で見守りたい
子どもの居場所があつたらいいな



寺を使って、子どもの居場所づくりをしよう!



STEP4

「新大塚みんなの広場」オープン!!



たこ焼きパーティー開催中!



校長先生と一緒に勉強!

実行委員が中心になり、地区の民生委員、児童委員、町会、青少年育成委員、小学校のご理解とご協力のもと運営をスタートしました。

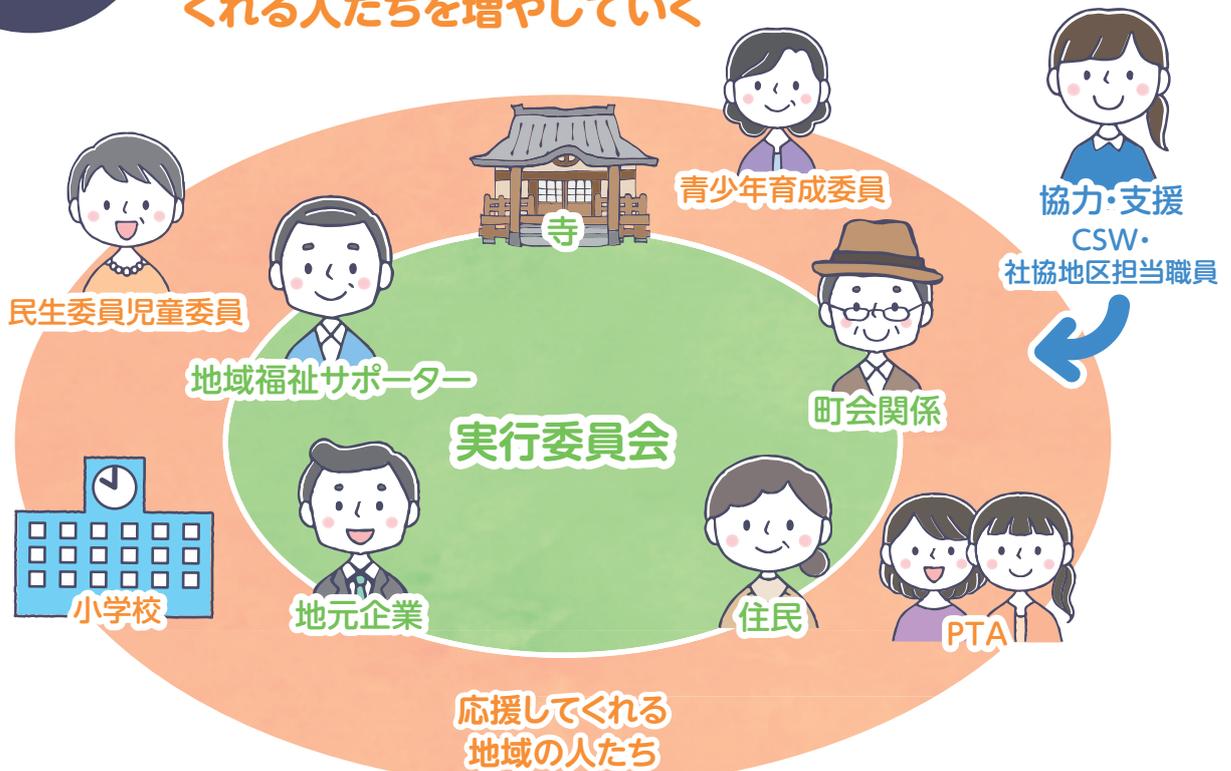
子どもたちの様子を見ながら、また地域のみなさんのご意見を頂きながら様々な企画を検討しています。



「地域の子どもは地域で見守ろう」という住民の想いと地元のお寺の「地域のために何かお役に立ちたい」という想いが一致し、住民主催の「新大塚みんなの広場」が2018年4月20日誕生しました。地域に根差した居場所をみなさんと作っています。

STEP2

実行委員会を立ち上げ、活動の趣旨を理解し応援してくれる人たちを増やしていく



STEP3

実行委員による打合せ



立ち上げまでのスケジュール

11月	区民ミーティングでの発信
12月	実行委員立ち上げ
1~4月	打ち合わせ(6回)
4月	オープニングイベント 【たこ焼きパーティー】
子どもの投票により 名称「新大塚みんなの広場」に決定!	

○主な検討事項

- ① コンセプト決定
「子どもは社会の宝」という理念のもと、
放課後子どもが安心して集える場所を作ろう
- ② 代表者・名称
- ③ 参加対象
- ④ 開催頻度・開催時間
- ⑤ 問い合わせ先
- ⑥ 広報(チラシポスターなど)

(3)学習支援活動

民生委員児童委員、青少年育成委員、地域福祉サポーター、学生、地域住民、町会・自治会、小学校や区民ひろば等、地域と連携しながら、子どもが地域で安心して過ごせる場づくりを目指し、子ども(主に小学生対象)への学習支援活動を区内3か所で展開しています。また教科学習以外に、社会科見学や調理実習、科学実験などの体験学習を行い、社会を知ると同時に、生活技術の向上も図っています。

ちゅうりっぷ学習会

学生ボランティアによる「学習支援チームつばめ」が中心となり、学習会の企画・運営・進行を担っています。民生委員児童委員や学生などのボランティアが親身になって寄り添うことで、子ども達にとっては、かけがえのない場となっています。



にじいろ学習会

夏休みと冬休みの期間に、青少年育成委員や民生委員児童委員、学生などによる宿題のサポートを行っています。また、子ども達の思い出作りを目的に、地域の団体や住民と連携し、理科実験や調理実習、書初めなどを実施しています。



あおぞら学習会

小学校の教室や区民ひろば(夏休みのみ)で、主任児童委員や民生委員児童委員、元教師などのボランティアによる一対一の学習形式を実現しています。一人ひとりのペースや進捗に合った学習が可能となっています。



(4)大学との連携

区内大学・専門学校等と連携し、サービスマーケティング(体験教育)、学生出前定期便、留学生の地域参加など、様々な活動を展開しています。

大正大学サービスマーケティング(体験教育)への協力

サービスマーケティングは、CSWが区民ひろば等と協力し、社会福祉学科の学生が地域の活動に参加することで、地域福祉の基礎的な学びとソーシャルワーク実践の意義を理解し、実践力を身につけることを目的としたプログラムです。大学で福祉を学びながら、子どもから高齢者までのひろばの事業等に参加し、地域から多くのことを学んでいます。



活動の成果

- ・活動をきっかけに、学生自ら継続的に区民ひろばの活動に参加している。
- ・CSWに興味を持つ学生が増えた。
- ・学生がプロジェクトチームを結成し、地域で企画を実施した。

学生からのコメント

地域の方々の生の声や、ひろば職員のみなさんの住民に対する熱い思いを肌で感じることができました!またCSWが行っている実践を間近で見ること、座学では学ぶことのできない貴重な経験となりました。

学生出前定期便への支援

学生出前定期便は、大正大学の学生によるボランティア活動です。具体的には、学生が地域に出向き、地域住民が生活していく中で起こり得る、ちょっとした心配ごとや困りごとを解決していくという取り組みです。



買い物に行きたいけど一人では不安

腰が痛くて草むしりができない

手が届かないから電球を替えられない

利用者の声

- ・相手が学生なので、すぐに打ち解けられる。
- ・人に会う機会の少ない私たちにとっての生きがい。
- ・学生が行うので気軽に頼みやすい。

学生の声

- ・ささいなお手伝いでも、ありがとうと言ってもらえることがやりがいにつながる。
- ・学生の強みが活かせる取り組みだと思う。

＼その悩み、学生が解決します!! /

(5)地域福祉サポーター活動

地域福祉サポーターは、身近な地域で不安や悩みを抱えた人たちに気づきや声掛けを行う地域の「小さなアンテナ」役として活動しています。また、サロンや子どもたちの学習支援活動などの地域活動に参加・協力しています。

障がいや難病の方も、在住、在勤、在学の18歳以上の方(高校生不可)であれば登録ができます。地域福祉サポーターに登録するためのスタート研修を実施していますので、お気軽にCSWまでご連絡ください!

学習会

サポーターとして、地域での気づきの視点を養い、活動につなげるため、年3回程度講師を招き、「学習会」を開催しています。また一般の方も参加できるように公開講座も開催しています。

- 今まで取り上げたテーマ(一部)
- ・発達障がいの子と幸せに暮らすヒント
 - ・視覚障がい者への支援
 - ・路上生活者の支援



視覚障がい者の支援について学び、アイマスク体験をしました。

交流会

地域福祉サポーター同士の顔と顔の見える関係を構築するため、圏域ごとに「交流会」を開催しています。小地域で実施することにより、地域に即した実践的な情報共有や意見交換などを行うことができます。また、男性限定や隣接した圏域と合同で開催するなど、参加しやすいよう工夫をしています。



地域福祉サポーター活動例

近所の住民から「隣の人をしばらく見かけない。倒れているかもしれない」という情報が入った。どうすればいいのだろうか。



地域福祉サポーター



CSWへ相談

CSWや民生委員児童委員、近所の住民、地域福祉サポーターで声掛けをしたところ、かすかな声で反応がありました。窓が開いていたため室内を確認すると、本人の意識はあるものの低血糖により動けなくなっていました。窓から手が届くところにドアの鍵があったため、本人の了解を得て開錠し、緊急搬送となりました。



地域福祉サポーターさんにインタビューしました!

サポーターとして活動していく中で、同じような思いを持った仲間ができ、支え合えるので嬉しい。

地域福祉サポーターになったからといって、特別に意識して何かやっていることはない。肩の力を抜いて、皆で地域福祉サポーターになりましょう。

夫が入院中に近所の方から大丈夫と声を掛けて下さった時、とても心強かった。今度は自分がそんな人になりたい。



紹介している地域活動は、豊島区内にある活動のほんの一部です。

区内で行われている集いの場や地域サロンについて、「CSW通信」や「Story&Map」、「ささえあいMAP」(トモニーつうしん掲載)などを作成し、紹介しています。社会福祉協議会のホームページや、区内公共施設などでご覧いただけます。

「CSW通信」

CSWの活動や地域の情報を発信しています。



「トモニーつうしん としまささえあいMAP」

豊島区内の地域活動をマップにして紹介しています。



「Story&Map このまちでみんなと生きてゆく」

地域に貢献している団体や企業、個人の方に焦点を当て、紹介しています。



豊島区民社会福祉協議会

ってどんなところ？

豊島区民社協では、地域の町会や民生委員児童委員、青少年育成委員など多くの人々と協働し、地域の様々な社会資源とネットワークを形成しながら活動しています。「誰もが安心して暮らせるまち」の実現に向けて、ボランティア活動支援や暮らしの相談支援など、地域に根差した活動をしています。

豊島区民社協キャラクター プロフィール



豊島区民社協キャラクター
ふくじい

気持ちは20代の元気おじいちゃんなんじゃ。趣味はボランティア活動で散歩を兼ねたパトロールが日課なんじゃ。好きな言葉は「何事も全力投球」じゃ。

ふくじい



豊島区民社協キャラクター
ふくみん

私の好きなことは探検・宝探し・ふくじいとのパトロールだよ！

ふくみん

名前

8月28日（豊島区民社協創立の日と同じ）

誕生日

5月19日（豊島区民社協に名称が変わった日）

「福」と「寿」を招く、幸せいっぱいシルバーヒーローです。

名前の由来

福祉の「ふく」に柔らかい音を合わせた名前です。「福祉をみんなで支える」が名前の由来ですが、「幸福な区民」という意味も込められています。

普段はどこにでもいるおじいさん。困っている人を見つけると、レンジャー姿で困っている人を助けに向かう正義の味方です。

キャラクター
イメージ

ふくじいの孫娘。周りの人の笑顔を運ぶ明るい女の子。ふくじいと街に出かけて、探検しながら発見したことをお友達や近所の人に教えてくれます。

さくら餅

好物

さくら餅

ふっさふさのヒゲ

チャームポイント

くるりとした前髪とポニーテール

アプリでのアクセスはこちら！

Webでのアクセスはこちら！

ふくじいの
LINEスタンプが
ダウンロードできます!!!
120円(50LINEコイン)です★





社会福祉法人 豊島区民社会福祉協議会 地域相談支援課

〒170-0013 豊島区東池袋1-39-2 豊島区役所東池袋分庁舎3階

TEL:03-3981-4392 FAX:03-5950-1239

E-mail:csw_toshima@a.toshima.ne.jp